

建設コンサルでのVE活動
VE activity in construction consultant company

村橋 元 (株)ユニオン 代表取締役
Hajime Murahashi

公共事業の一翼を担うわが社では、1997年に「公共工事コスト削減に関する行動方針」が閣議決定されたことをうけ、2002年度より全社をあげてVEに取り組むことにしました。

1、取り組み

公共事業は長引く不況で税収不足となり、毎年減少傾向にある。その背景として、コストを削減する姿勢が少なかったと思料されます。わが社では2001年にVEの必要性を研究し、2002年より社長以下新入社員・役員・OB・技術社員・一般職社員まで100名の社員全員で取り組むことにしました。

2002年のISO社長年度方針で「全社員でVEにトライ」を掲げ、2003年3月には、穴戸CVSの指導のもとに、社長以下60名のVEリーダーを誕生させることができました。

2、我が社でのVE活動

そもそもVEとは、チームデザインでアイデアを出し合い、ヴァリューをあげることにあります。その観点から、全員がVEリーダーであれば、いつでもどんな時でも、コスト縮減のためのアイデアを出し合えらと考えます。

また、社員全員が取り組むことにより、会社内に一体感が生まれ、士気の高揚に繋がり、また、一方では、VEを活用する企業としてオンリーワンの会社に繋がっていくことができました。

3、実用例

建設コンサル部・・・集落排水事業では地域の人たちと何回も話し合い、改善点を模索し、予算内で地域に役立つ施設を計画することができました。また、河川計画では地域のお年寄りとは何回も会議を重ね、予算をより重点補強地区に廻し、予算変更役に役立たせることができました。特に積雪寒冷特別地域の道路設計にはVE活用が評価されました。

測量部・・・作業を始める前に工程の上でVEの活用ができないかを協議し、工期の短縮に努める一方、新しいシステムVRSの積極活用で、工期の短縮にも寄与しました。

補償コンサル・・・古墳調査では粉塵防止をVE活用で徹底的に改善し、地域の方々との意思の疎通が図れました。

4、今後

公共事業整備の一翼を担うものとして、コスト削減に努め、価値の高いものを世の中に送り出して行きたいと考え、全ての成果品に必ずどこかにVE思考を入れることを念頭に、わが社の商品造りをしています。